

# 施行・生花業者もキリスト者による葬儀ミサ 故ミカエル柳瀬睦男 葬儀ミサ・告別式



日時・2009年1月19日(月)13時30分～15時  
場所・聖イグナチオ教会主聖堂(東京都千代田区)

故人名・柳瀬睦男(元上智大学学長)  
2008年12月7日死去(86歳)  
式形態・キリスト教(カトリック)式焼香方式  
祭壇形式・生花祭壇  
会葬者数・300人  
主催者・学校法人上智学院、上智大学  
施行業者・非公表  
生花業者・花智(東京都府中市)



祭壇を要にして扇形に広がる椅子は約750席



JR中央線四谷駅前、上智大学に隣接する聖イグナチオ教会。1947年に現在地に移転して現名に、聖堂は98年に建造



記帳所と受付は、仮設テントを利用。参加者の香典は、故人の遺志により大学の教育研究に活用される

横長の楕円形をした聖堂に合わせ、生花による遺影・遺骨周囲の飾りも、四方どこからでも見ることができるよう楕円形につくられた。写真は「感謝の典礼」。最後の晩餐をかたどる、ミサの中心的儀式

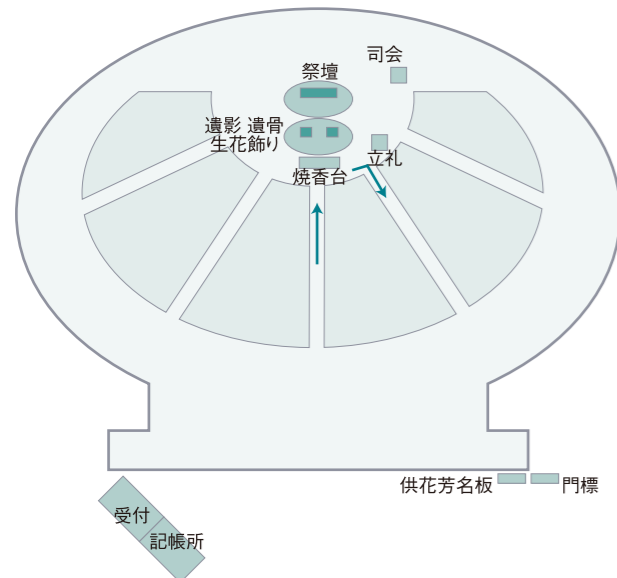
- 祭壇データ
- 祭壇サイズ  
間口2.7×奥行2.4m(生花飾り部分)
  - 使用花材  
スイートピー(紫)200本/スイートピー(白)100本/スプレーマム100本/スプレーカーネーション(ピンク)100本/デルフィニウム100本/スイートピー(オレンジ)50本/ルレーブ50本/プレウルム50本/カスミノウ50本/カサブランカ40本など
  - 遺影サイズ  
幅43×高さ54cm
  - 制作時間  
1人で3時間



司祭が灌水・献香で故人への敬意を表する



白服の神父が焼香によって告別



主聖堂入口に設けられた門標と供花芳名板



遺骨は、閉式後、すぐにクリプタ(納骨堂)に安置された

元上智大学学長の柳瀬睦男氏が08年12月7日に死去し、年明けの1月19日、東京・四谷の聖イグナチオ教会(カトリック)で葬儀ミサが営まれた。約300人が参加した当日は、ちょうど故人の87歳の誕生日でもあった。

故人は1922(大正11)年、大阪生まれ。広島と長崎に投下された原爆が自ら専攻する原子物理学によってつくられたことに衝撃を受けて信仰の道に入り、47年にカトリックの男子修道会であるイエズス会に入会。58年に司祭に叙階されるとともに、63年から30年近くわたって上智大学理工学部で教鞭をとった。75年から81年まで学校法人上智学院理事長、81年から84年までは上智大学学長も務めた。

カトリックにおいてミサは、キリストの肉であるパンと血である葡萄酒をもってキリストを神に捧げ、神の生命に与る糧と飲み物をいただく儀式であり、葬儀ミサでは、キリス

トを神に捧げるとともに故人も神に委ね、永遠の生命が与えられるよう祈るものである。ミサのはじめに、主司式者の高祖敏明上智学院理事長は「キリスト者の絆は、たとえ死によっても消えることはない」との信仰を宣言した。

式は「開祭」の後、聖書の朗読や説教が行なわれる「ことばの典礼」、キリストの最後の晩餐をかたどる「感謝の典礼」、聖体拝領と進み、さらに、弔辞や弔電、焼香によって告別がなされた。その後、遺骨は喪主らの手によって、教会地下に設けられているイエズス会会員の墓所であるクリプタ(納骨堂)に納められた。

当日の施行業者の代表者は自身もカトリック教会に属し、教会内で葬儀の進め方を検討する過程で自ら葬儀社を興したといい、生花業者も担当にカトリック信者をあてるなど、キリスト者の共同体による故人を神に委ねる儀式の執行が目指された。

## 式次第

- 【開祭】
- 13:29 開式の辞
- 13:30 聖歌「みもたまも」  
司祭入場(主司式:上智学院理事長 高祖敏明)  
灌水・献香
- 【ことばの典礼】
- 13:34 聖書朗読(知恵の書13章1~9節)
- 13:37 答唱詩編
- 13:40 アレルヤ唱(マタイ11・25、典礼聖歌275①)
- 13:41 聖書朗読(マタイによる福音書11章25~30節)
- 13:42 説教  
上智大学神学部長 佐久間勲
- 【感謝の典礼】
- 13:54 聖歌「きまきまきま」
- 13:59 主の祈り
- 14:03 聖体拝領
- 【告別式】
- 14:07 聖歌「いつくしみふかき」  
灌水・献香、結びの祈り
- 14:11 弔辞  
上智大学名誉教授 青木清  
上智大学理工学部長 田宮徹
- 14:28 弔電
- 14:29 施主あいさつ  
上智学院理事長 高祖敏明
- 14:31 焼香  
聖歌「神ともにいまして」
- 14:50 納骨